

# 川井稲荷山古墳

(かわいなりやまこふん)

所在地

群馬県佐波郡玉村町川井1991

この古墳は1968年に尾崎喜左雄博士によって発掘されました。

上毛古墳総覧では芝根村7号古墳と記載されています。

築造は古墳時代前期末にあたる4世紀末ごろといわれています。

現在はその形を見ることはできません。

古墳の周辺には周濠(しゅうごう)があります。

川原石による葺石があります。

この古墳は一度作られた古墳を**再利用する**という珍しい方法がとられています。

二つの石室や出土品の種類から、この川井稲荷山古墳は一度埋葬されていた古墳を再利用し、もう一度埋葬したとされています。

埋葬施設は一次古墳では竪穴(たてあな)系の埋蔵施設と、二次古墳では横穴式石室(よこあなしきせきしつ)の2つがあります。もともと4世紀末ごろに作られた古墳の上に、再び6世紀に古墳が作られました。

## 出土品

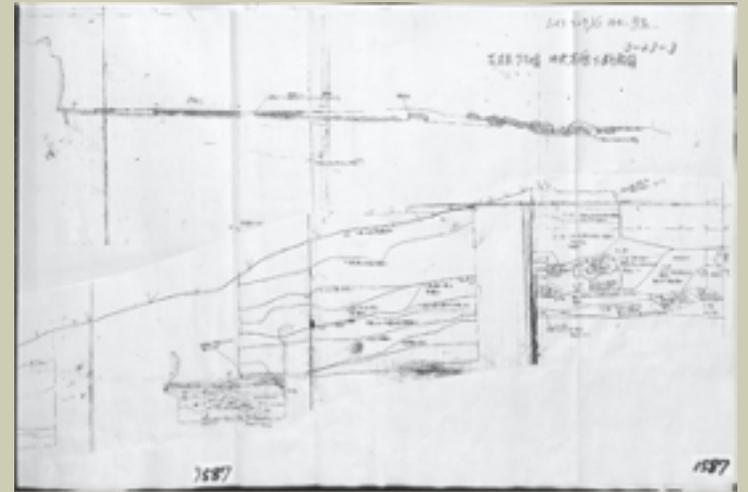
当初利用時

歴史の授業でよく聞く三角縁神獣鏡(さんかくぶちしんじゅうきょう)が出土しています。

再利用時

円筒・器台形・家形・人物埴輪など様々な埴輪(はにわ)が発掘され、墳丘(ふんきゅう)には埴輪の配列もされていました。

他にもガラス製小玉・銅製耳飾・鉄製耳飾・鉄刀・鉄鏃(てつぞく)・長頸鏃(ちょうけいぞく)・轡(くつわ)などが出土しています。



尾崎研究室による実測図面

